

ネットワーク立飛

TACHIHI GROUP NEWSLETTER 2022 6th ISSUE

立飛グループニュースレター 令和4年 第6号

メインインタビュー

エー・ビー・シー開発株式会社

代表取締役 社長

安田卓生さん

テナント様ご紹介

株式会社 栗原医療器械店立川支店

お店紹介

Season Essence Craft

S・E・C GREEN SPRINGS



テナント様ご紹介



選ばれ続けるパートナーへ

株式会社 栗原医療器械店
立川支店



創業70周年を迎えた医療機器総合ディーラー 栗原医療器械店。
毎日の医療を守る〈縁の下の力持ち〉。立川の地域医療も支えます。

コロナ感染症拡大時は大変だったのではないですか。

東野 今でも感染の状況によって、少し入手に苦労する製品もあります。

初期の頃はマスクが大変でしたでしょう。

東野 そうですね。マスク、ガウン、手袋…あの時は夕方になると看護師さんたちが一カ所に集まってポリ袋をカッティングしてガウン状のものを作らためて翌日から使うということをしていましたね。物を供給している我々が供給できないがために看護師さんたちの時間外の作業を目の当たりにして、とても胸が痛かったですね。

御社の取り扱い製品は、そういった細かいものから大型のものまでおありなんですよ。

東野 大きい物では、皆さんがなじみのあるものではエコーと



色々な形態で執務できる明るい事務所

呼ばれている器械とか、CT、MR、最近ではロボット手術装置ですね。細かい物は注射の針やガーゼなど、基本的に院内に置いてある物はすべて取り扱い可能製品になります。

メーカーさんが直接病院に販売するのではなくて、御社のような卸業が入るメリットはなんでしょう。

東野 メーカーさんが営業する我々と協業することで小回りが利いた対応ができるということですね。また病院側の望んでいる情報もお伝えすることができます。

立川支店の守備範囲はどこになるのでしょうか。

東野 立川市、周辺の市部、全部で12市を担当しています。けれども昭島市、あきる野市、日野市、多摩市などは八王子支店の担当になります。府中は我々の担当ですが、お隣の調布は城西支店の担当区域になります。



立川支店 支店長 東野哲人さん(右)とセールスサポート課 課長 古川文香さん

なるほど。その区域を何人の営業の方で回られるのですか。

東野 我々は専門チームというのがありまして、例えば整形とか内視鏡とかを専門に扱うスタッフがおりますので、営業は総勢18人でやっている状態です。

医療機器の進歩もめざましいものがありますが、そういったご提案もされるのですか。

東野 はい。させていただいております。定期的に仕入れ先様の勉強会に参加させていただいて、新しい機器だったりそもそも疾患自体の話を勉強させていただいたりしています。

「選ばれ続けるパートナーへ」というスローガンがおりますが。

東野 はい。立川支店の開設と同時期に、群馬県太田市に今までの規模の4倍の物流センターを作りました。関東一円の医療材料の供給機能のマザーセンターになります。今回のコロナ禍でもそうでしたが、規模が大きくなれば在庫もたくさん持てるわけで、「医療を止めない」ことへの一躍を担い続けるためですね。

ありがたい存在ですね。

東野 直接的、間接的に医療に携わるわけですので、患者様

を自分の家族のように思うところが社員全員の心にあると思います。社員はみんな責任感がとても強いですね。



宇窪街道沿いにある立川支店

栗原医療器械店
コーポレートサイト



栗原医療器械店
For You オンラインショップ

